

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 第1学年： 既習事項の知識は全体的に見て身につけている。
- ・ 第2学年： 言語活動を積極的に行おうとする意欲は高まってきている。
- ・ 第3学年： 語形変化や語法の理解力が深まっている。話すことへの積極性も高い。

(2) 課題

- ・ 第1学年： 情報を整理し、自分の考えをまとめて英文で書いて表現すること。
- ・ 第2学年： 目的や場面に応じた表現などを正確に書いたり、話したりすること。
- ・ 第3学年： 英語の内容を正しく捉え、場面にあった受け答えをできる力を付けたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	平均正答率は目標値を10.7ポイント上回った。		
第2学年	平均正答率は目標値を6.1ポイント上回った。	平均正答率は目標値を10.3ポイント上回った。	
第3学年	平均正答率は目標値を6.8ポイント上回った。	平均正答率は目標値を6.1ポイント上回った。	平均正答率は目標値を6.7ポイント上回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を1.8ポイント上回り、目標値を11.3ポイント上回った。各領域においても目標値を上回っている。	区の平均を2.8ポイント上回り、目標値を9.4ポイント上回った。必要な情報を読み取り、英文を完成する力が弱い。	区の平均を3.1ポイント上回り、目標値を3.3ポイント上回った。自分のことについて書く英作文の力は比較的弱い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を1.7ポイント上回り、目標値に対しては7.2ポイント上回った。各領域においても目標値を上回っている。	区の平均とほぼ変わらず、目標値に対しては5ポイント上回った。特に「書くこと」について、状況や場面に応じて相手に伝える英文を書く力が不足している。	目標値に対しては、5.3ポイント上回っているものの、区の平均に対しては0.3ポイント下回っている。記述式の問題に対しての「無解答」の生徒が一定数いる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を2.0ポイント上回り、目標値を8.1ポイント上回った。概ねどの領域においても目標値を上回っている。	区の平均を4.6ポイント上回り、目標値を5.0ポイント上回った。長文を読み取り、その概要を捉えて英文を書く力が弱い。	区の平均より2.6ポイント上回り、目標値を1.4ポイント下回った。記述形式の問題、特に場面に応じて書く英作文力が弱い。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各学習活動において4技能と関連付けさせ、更なる定着を図る。	身につけた力をより実際に近い場面で活用できるよう、各学習活動において効果的な場面設定に努め、書くことや話すことといった表現活動の機会創出を行う。	特に書くことについて、英作文で自己表現しようとする態度を育てる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習内容を繰り返し復習する機会を設定し、知識・技能である基礎・基本の定着を図っていく。	状況や場面を設定し、それに応じた表現を書く機会をさらに増やし、取り組ませていく。	「書くこと」について、1文での表現から段階的に文の数を増やしていけるような取り組みを行っていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4領域全てにおいて、文構造や文法事項の精度を上げながら各学習に取り組ませる。	長文の要約文作りやストーリーリテリングなど英文の概要を捉える練習に取り組む。	英作文練習。特に手紙やメール等の返事を書く学習や話題に沿ったチャットなど、場面にあった英語の受け答え練習に取り組む。